

三重自然誌



第18号

2023. 6

三重自然誌の会

目 次

『三重県明和町大淀海岸におけるカワラハンミョウの発見および生息地消滅までの経過』と、津市白塚海岸生息地の消失の危機について …… 中西元男・乙部 宏 …… 1
三重県内のクモ類 …… 貝發憲治 …… 6
三重県産カニ類 ―近年の採集記録 …… 緒次美穂 …… 18
熊野灘島嶼のクモ類 …… 塩崎哲哉 …… 25
坂手島（三重県鳥羽市）で採集したクモ …… 塩崎哲哉 …… 29
赤目室生国定公園及び周辺のチョウとトンボ …… 中西元男 …… 31
赤目四十八滝（三重県名張市）で採集したクモ …… 塩崎哲哉 …… 36
青山高原周辺における貝類の記録 …… 中 優 …… 39
大洞山周辺における貝類の記録 …… 中 優 …… 41
室生赤目青山国定公園および周辺地域で確認した哺乳類、爬虫類、両生類 …………… 清水善吉 …… 43

表紙写真解説

～ カワラハンミョウ ～

海岸や河原などの砂浜に生息するハンミョウであり、この虫にはちょっとした思い出がある。2003年に県庁の自然環境の部署に異動になったときに、最初に取り組んだのが、前年度に施行された県自然環境保全条例に基づいた「指定希少野生動植物種」20種を選定することであった。希少ということで、絶滅の恐れが大事な要素になってくることから、カワラハンミョウを含めた動植物20種を選定し、それについての意見を県民から募ったところ、本種の指定についての反対意見が多数寄せられた。指定種となると捕獲が自由に出来なくなることから（届出制）、捕獲しないと同定できない昆虫を指定することへの抗議が多数であったように記憶している。カワラハンミョウはみればわかるでしょう。という思いを公僕としては飲み込んで、低姿勢に徹したおかげで指定の運びとなり、今は指定種として大事に扱われているのを見るにつけ、思うところはある。

写真／大矢正雄、文／清水善吉